

令和4年度安房中学校森林教室(2回目)を開催(10月20日)

屋久島森林管理署及び当保全センターでは、5月25日に実施した安房中学校での森林教室に続いて、10月20日に2度目となる安房中学校1年生に対する森林教室を実施しました。また、今回は環境省屋久島自然保護官事務所及び屋久島環境文化研修センターの皆様にもご協力いただきました。

当日は荒川登山口より、片道50分かけて森林軌道を歩き、小杉谷小・中学校跡地周辺まで向かいました。道中、停車中のトロッコがあり、生徒たちは珍しそうに見学していました。

小杉谷小・中学校跡地に到着した後は、小杉谷の歴史について説明した後、環境省屋久島自然保護官事務所より、紙芝居を用いた国立公園と世界遺産についての講義をしていただきました。内容はクイズを交えたわかりやすいもので、生徒たちはクイズを楽しみつつ、最後まで熱心に聞いていました。



環境省の講義の様子

その後は、屋久島環境文化研修センターより、屋外ならではのネイチャーゲームを実施していただきました。内容は自然の中に人工物を隠し、それを探すというもので、生徒たちは隠す側と探す側の2班に分かれ、難しいところに隠そうと張り切っている生徒もいれば、逆にサービスで簡単なところに置いている生徒もおり、皆それぞれの楽しみ方で遊んでいる様子でした。

午後からは樹木に親しむとして、スギの木の高さや大きさの測定を行った後、実際に鋸を使ってスギの伐倒を体験・見学してもらいました。スギが伐倒された際は、生徒たちから歓声が上がって

いました。伐倒の後は、そのスギを用いて、鋸による丸太切り体験を実施しました。生徒たちは技術の時間に鋸を使ったことがあるようで、苦勞しつつも、木の輪切りを何度もやり遂げていました。最終的には、各々好きな長さに切ってもらい、切った丸太を持ち帰ってもらいました。



樹木の太さの測定体験

希望者のみの持ち帰りだったのですが、想像以上にたくさんの生徒たちが丸太を持ち帰っていました。中には切った丸太の樹皮を丁寧に剥いている生徒もおり、樹液を触ったり、においを嗅いだりして、興味津々な様子でした。

今回の森林教室では、小杉谷の歴史学習や立木から丸太になるまでの作業を体験してもらいました。

また、環境省屋久島自然保護官事務所及び屋久島環境文化研修センターの皆様にご協力いただいたおかげで、森林教育の学習の範囲を広げることができました。

今後も様々な森林教室を実施し、屋久島の子どもたちに屋久島の森林や林業について学びを深めてもらえるよう、努めてまいります。



丸太切り体験

屋久島こんちゅう探訪 壱

公益財団法人屋久島環境文化財団インストラクター 渡邊 卓実

私は昆虫が好きだ。そして、とても不思議な生き物だと思う。空を飛び、土を掘り、蠟を生成するものやプラスチックを分解するものまでいる。何でもありだ。

併せて、これから私が記録・体験した昆虫との出来事に関してまとめたが、前置きとして「私は変態ではない」。ただ純粹に、昆虫の中でも特に「※完全変態の昆虫」、が好きなことを記した。

※ カブトムシやチョウなど、サナギの時期がある昆虫。

私は関東の都心部で生まれ育ち屋久島へ5年前に移住をした。屋久島では「シティーボーイ」と言われることが多々あったが、私が住んでいた場所は神奈川県の中央で、30分で横浜、30分で愛川という、都会と田舎のいいとこ取りをした場所だった。

私は祖母の家で暮らしており、幼い頃から、長期休みになると祖母の実家の愛知県新城市吉川(図1)で過ごしていた。

私は学校の運動会や文化祭などのイベントよりも祖母の実家に行くほうが楽しみであった。

なぜなら、家の前の県道は2車線あるが、1日の車の台数は両手で数えきれないほどしか通らない。



図1 愛知での様子

トイレは、いわゆるボットン便所で、野生動物の方が人よりも多い。

まぎれもない「田舎」である。ただシンプルに私はその環境が好きだった。

なにより、生き物を捕まえることが好きで、特に昆虫を追いかけていたときの気持ちは未だ鮮明に覚えている。

そのような楽しい思い出がたくさんあるため、私は「シティーボーイ」ではなく「尾張の男」だと思っている。だが、神奈川県の実家も好きだ。

私は今の職場で昆虫を調査・研究し、発表報告・講義など様々な場所と方法で、色々な方へ昆虫についてお話をします。

特に小学校へ伺うことが多い。教室へ行くと子供達の昆虫を捕まえたい気持ちと、好きな気持ちが教室から溢れている(図2)。

とてもよく分かる。私もみんなと一緒に。幼い頃は、見る昆虫全てが新しく、毎日が誕生日のように嬉しい気持ちでいっぱいだった。

その気持ちが忘れられないため、日々昆虫を追いかけて、そして屋久島への還元につなげられるよう、森の中を駆けずり回っている。

(つづく)



図2 学校での様子



屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

〔標高1250mプロット（龍神杉付近）〕 確認種数：64種（平成27年度調査：47種）

◆調査結果の概要 尾根付近の平行斜面上で雲霧帯に入り日中でも薄暗い。高木層はスギが優占し、ヒメシャラ、ヤマグルマ、ユズリハが出現する。亜高木はユズリハ、ヤマボウシ、ヤマグルマ等、低木層はサクラツツジ、ハイノキが突出して多い。草本層はハイノキが突出して多く、ヤクシカ食害の影響が窺える。②～③プロットにかけて北向きにせり出した崖地があり、シダ類、スズコウジュ等の草本が多数、シカの食害を受けずに生育している。シカ食痕はリョウブ、ハイノキ、ツクシヌツゲに見られ、サクラツツジを中心に不嗜好植物の増加も目立っている。

◆優占種の変化

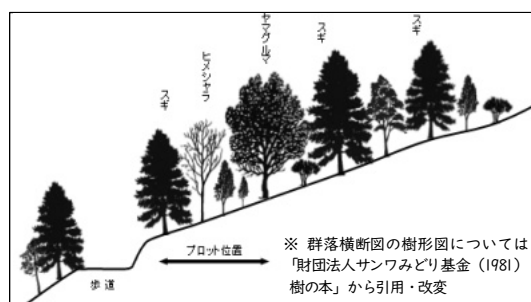
階層区分	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
高木層（9.0m以上）	スギ	スギ	スギ	スギ
亜高木層（4.0m～9.0m）	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ
低木層（1.2m～4.0m）	サクラツツジ	ハイノキ	ハイノキ	サクラツツジ
草本層（1.2m未満）	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ



ハイノキに見られたシカ食痕



リョウブに見られたシカ食痕



標高1250mプロットの群落横断面

「次世代の屋久島の森林・林業を守り育てる森林の体験・学習活動」シリーズ②

ウッドショップ木心里 代表 鹿島裕司

屋久島では山の木を伐る人やそれを運搬する仕事をする人を『山師』と言います。

島の大切な資源を枯渇にしないように、伐り方にも運び出し方にも技術と経験を要します。私は、23歳の当時「伝説の山師」と呼ばれた親方の弟子になりました。

有限会社「愛林」代表、高田久夫。屋久島で生まれ育ち、17歳から山で働き、屋久杉大径木の伐採、搬出、土埋木の伐り出しなど、この島の産業を次世代に引き継いだ一人です。そして、当時私には山奥深くで共に働いた仲間がいました。山と森、そこにある大いなるものへの感謝の気持ちを忘れないこと、千年後の屋久島の森を守っていくことを親方から学んだ大切な仲間です。「その仲間が山で懸命に働く姿をこども達に見てもらいたい。」という思いから林業取材を行っています。

株式会社「屋久林」代表、本田竜二氏は、親方の思いを受け継ぎ、島で唯一の屋久杉土埋木の搬出を行う山師です。竜二氏の父も、かつての山仕事を知る数少ない山師で、その父と同じ林業の世界へ。現在は、島に残る唯一の山師として、若手の人材育成に活躍されています。彼の厳しさと優しさ。その姿から、「私はこれからも木育を通して、未来を担う子ども達が島の木々や林業に興味を持つ環境をつくること、そして林業の担い手を育てること」を志していきたい。私たちを育ててくれた島への感謝の気持ちを蘇らせてくれた仲間と山での再会となりました。

シリーズ②では、なぜ木育に取り組むのか？について掲載させて頂きました。林業への熱き思いを感じて頂けると嬉しいです。



(有)愛林 高田久夫



(株)屋久林